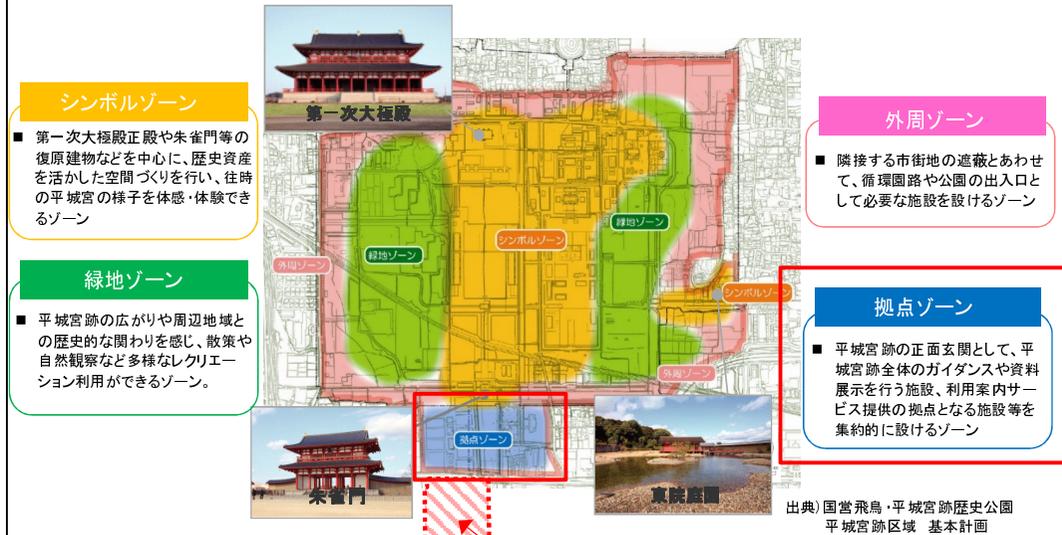


事業箇所総合評価シート(案)

事業名	平城宮跡の利活用推進事業(南側整備)		路線名等	平城宮跡歴史公園	
箇所名	平城宮跡歴史公園 南側地区【区域拡大】(奈良市三条大路四丁目)				
事業の概要	目的	2017年7月に移転を表明した積水化学工業(株)奈良事業所敷地は、朱雀大路の遺構部分を含んでいる。この敷地を平城宮跡歴史公園として区域拡大し、平城宮跡の一層の保存・活用を図ることを目的とする。 (背景) ・平城宮跡は、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産のひとつであり、1300年前の都の跡がそのまま現代に残っている我が国でも極めて貴重な空間。 ・その保全にあたっては、2008年に国土交通省と連携して「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園平城宮跡区域基本計画」を策定し、公園全体の整備、利活用の具体的内容を定め、取り組んでいる。			
	事業内容	・都市公園整備(平城宮跡歴史公園県営公園区域に編入) 事業内容: ①遺構の保全(築地堀含む)、②駐車スペースの整備、③にぎわい空間の整備(便益施設(P-PFIを想定))、④くつろぎ空間の整備(休憩広場)			
	着手年度	令和2年度	完成年度(予定)	令和11年度	全体事業費
定性的評価	事業の必要性	積水化学工業(株)の事業所移転に伴い、2018年8月に同社、奈良県、奈良市の三者が包括連携協定を締結し、協働して平城宮跡周辺に相応しいまちづくりの跡地活用を進める。 (想定する事業効果) ・奈良市の中心市街地における東西幹線道路である大宮通りと三条通りの間に歴史的雰囲気があふれる貴重かつ広大な公共空間の創出が図られる。 ・北側の平城宮跡歴史公園との統一コンセプトのもと、整備を計画的に進められる。 ・災害発生時の避難場所など多様な公共機能が将来にわたって期待できる。 (空間配置) 朱雀大路跡を「遺構保全空間」として三条通りまで配置するとともに、「にぎわい空間」、「くつろぎ空間」及び「駐車スペース」を一体的に公園として整備。			
	上位計画等	・「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画」(平成20年) ・平城宮跡歴史公園南側「積水化学工業(株)所有地」における跡地活用に関する積水化学工業株式会社、奈良県、奈良市との包括連携協定書(平成30年8月)			
	事業の有効性(事業により予想される効果及び影響)	【費用対便益】国営公園と一体的に算出 B/C=1.1(精査中) 【便益に計上されていない効果】 歴史・文化資産の保存効果 平城京の貴重な埋蔵文化財の保全と、平城宮跡周辺に相応しい都市景観の保全を行うことにより、歴史公園の価値を向上させることが期待される			
	コスト縮減への取組み	・施設の計画・設計、施工の段階において、材料や工法の見直し等を行いコスト縮減に努める。 ・P-PFIの導入を検討する。(便益施設から生ずる収益を活用し、公園施設や園路、広場等を一体的に運営する者を公募により選定)			
	地元情勢等	・土地所有者の積水化学工業(株)と包括連携協定を締結し、跡地活用方策の検討を行っている。 ・積水化学工業(株)は、早期の方針決定と跡地活用を望んでいる。			
他計画他事業との関連	・国営公園区域の整備: 国営平城宮跡歴史公園 第一次大極殿院建造物復原整備計画(国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所 H23.7策定) 令和4年春には南門の復原工事が完成予定 ・県営公園区域の整備: 平城宮跡歴史公園 拠点ゾーン整備計画(国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局平城宮跡事業推進室 H25.12策定) 令和8年春に歴史体験学習館が完成予定				

■公園基本計画における現在の平城宮跡歴史公園ゾーニング



■平城宮跡歴史公園 南側地区【区域拡大】

～公園整備のイメージ～



